

事前評価個表

| | |
|------|----|
| 整理番号 | 29 |
|------|----|

| | | | |
|---------|----------------|--------|----------------|
| 地域（地区）名 | 八溝多賀地域 | 事業名 | 森林環境保全整備事業 |
| 計画策定主体 | 茨城県 | 対象市町村 | 北茨城市ほか5市町 |
| 事業実施期間 | H23 ~ H27（5年間） | 事業実施主体 | 市町，森林組合，森林所有者等 |

| | |
|-----------|--|
| 事業の概要・目的 | <p>八溝多賀計画流域は県北部に位置し，東は太平洋，北は福島県，西は栃木県，南は水戸那珂森林計画区に接する地域で，北茨城市，高萩市，日立市，常陸太田市，常陸大宮市，久慈郡大子町の5市1町を包括している。主な山岳は県内最高峰の八溝山，鷲子山，男体山，和尚山及び土岳等で，山地の土壌は適潤性の褐色森林土壌が広く分布しており，スギ・ヒノキの優良な人工造林地帯となっている。</p> <p>本流域は林野率約69%と県平均の約32%を大きく上回っており，本県の代表的な林業地帯である。また，スギ・ヒノキ等の人工林は，枝打ちや間伐等保育の必要な森林が人工林面積の約17%，主伐期を迎える林分が人工林面積の約83%を占め，利用可能な森林資源が充実している。さらに，保安林等の制限林が約1万4千haあり，水資源のかん養や県土の保全及び自然環境保全等の重要な役割を果たしている。</p> <p>本計画流域は林地生産力が高く，充実した森林資源に恵まれており，本県を代表する林業地帯となっているが，木材価格の低迷や林業労働力の不足などから，荒廃した森林が増加しつつあるため，施業の集団化や素材生産コストの低減を図るとともに，本計画では次のことを目標に掲げ，健全な森林の育成と森林の持つ公益的機能の持続的発揮に向けた森林整備を推進する。</p> |
| 事業内容・事業費 | <p>森林整備：8,866ha 人工造林，下刈り，枝打ち，除伐，間伐等</p> <p>総事業費：1,973,505千円</p> |
| 費用対効果分析結果 | <p>B/C = 4.75 (総便益(B) = 23,884,234千円、総費用(C) = 5,023,460千円)</p> |
| 評価結果 | <p>必要性：保育対象林分の賦存状況等の森林の現況、森林整備の緊急性等からみて必要性が高いと判断される。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能確保はもとより、将来の優良材の安定的生産にとって有効である。</p> <p>森林は，多様な機能を有しているがこれらの機能は一度失うと回復に長時間を要することから，適時適切な施業を計画的に実施することが不可欠である。 本計画は，森林の年齢構成等に応じた適切な森林整備等の計画をしているほか，効率性・有効性が認められ，採択要件も全て満たしている。 このため，森林整備事業計画として実施することが適当である。</p> |

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 八溝多賀

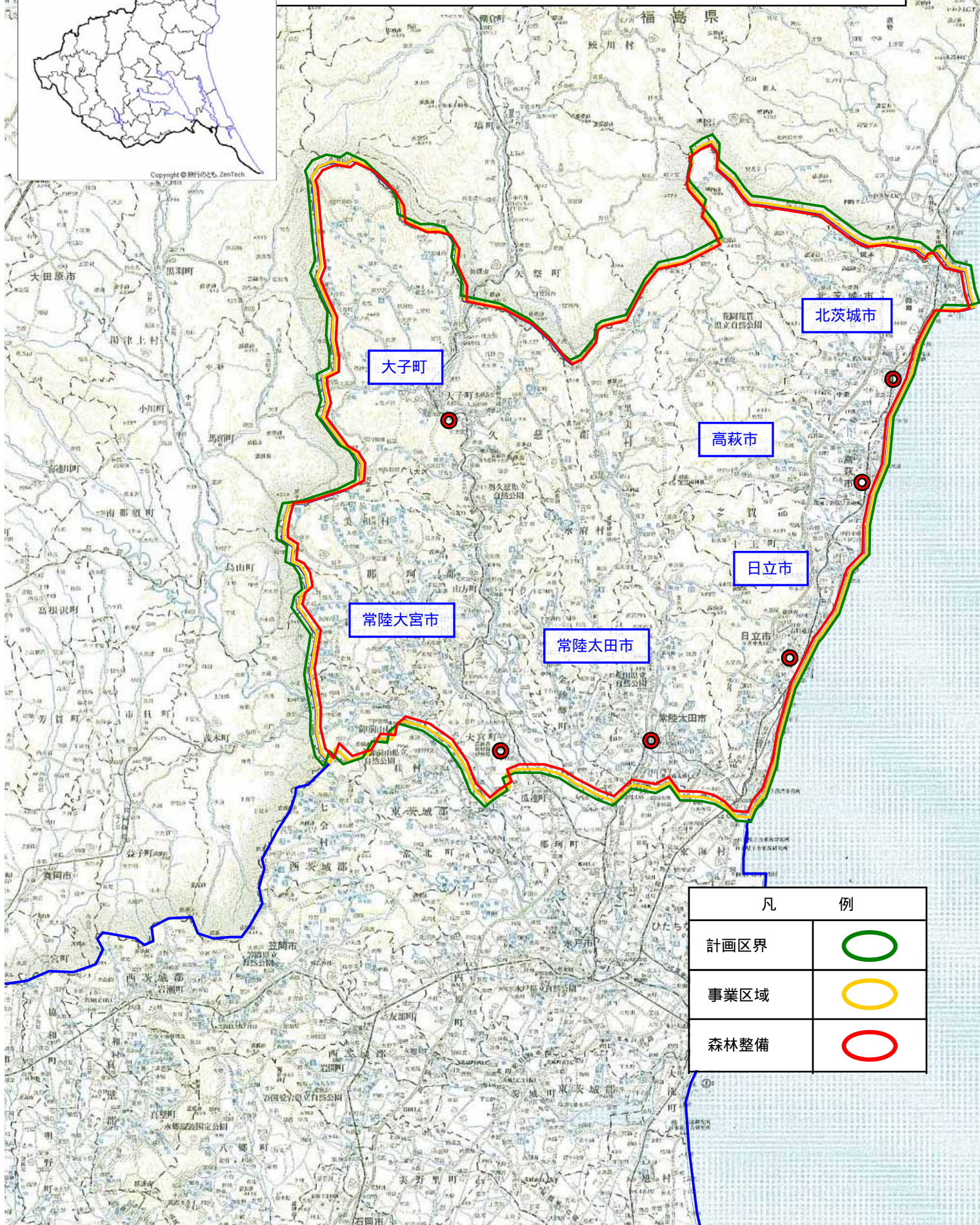
茨城県
 (単位: 千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------|--|------------|-----|
| 水源かん養便益 | 洪水防止便益 | 8,252,353 | |
| | 流域貯水便益 | 226,256 | |
| | 水質浄化便益 | 4,808,562 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 9,602,482 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 532,096 | |
| 木材生産便益 | 木材生産確保・増進便益 | 462,485 | |
| 総 便 益 (B) | | 23,884,234 | |
| 総 費 用 (C) | | 5,023,460 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{23,884,234}{5,023,460} = 4.75$ | | |

茨城県



森林環境保全整備事業 八溝多賀地域（茨城県）概要図



太子町

北茨城市

高萩市

日立市

常陸大宮市

常陸太田市

| 凡 例 | |
|------|--|
| 計画区界 | |
| 事業区域 | |
| 森林整備 | |